

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

アジア開発銀行（証券コード：－）

【据置】

長期発行体格付	AAA
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) アジア・太平洋地域の経済成長及び経済協力の支援、域内の開発途上国の経済開発の促進を目的とする国際開発銀行。格付は、当行業務に対する加盟国からの強い支援、強固な資本基盤、保守的なリスク管理による健全な資産の質、優先債権者としての地位の享受などを評価している。新型コロナウイルス感染拡大に対して、緊急財政やワクチン供給など各種支援策を迅速に実施してきた。感染拡大の中でも資産の質は非ソブリン貸付の不良債権が僅かに増加したものの、全体では不良債権比率は極めて低水準に抑えられるなど健全性を維持している。JCR では、業務に対する加盟国からの強い支援とともに、強固な資本基盤と保守的な財務運営により健全な資産の質を維持していくとみている。
- (2) 1966年にフィリピンのマニラで設立され、加盟国は19年のニウエの新規加盟により域内国49カ国、域外国19カ国、計68カ国まで増加。通常財源、特別基金、信託基金などを通じ様々な支援を開発途上加盟国に提供している。格付はこの通常財源を対象としており、他の基金とは会計上完全に分離されている。過去5回の一般増資、ニウエの新規加盟、さらにはアジア開発基金の譲許的貸付業務統合を受け、21年9月末の応募済資本金は1,504億米ドル。授權資本は加盟国からの強い支援を受け、全て応募済みであり、請求払資本と払込資本金の構成比はそれぞれ95%、5%。他の国際開発銀行と比べても、信用力の高い国が占める請求払資本金の割合が高く、必要な場合には払込資本請求の受諾が可能と思われる。
- (3) 域内の開発途上国の経済は感染拡大の影響から20年の成長率は小幅な落ち込みとなったが、21年は供給制約の影響があったものの、経済活動再開や商品価格の上昇などから7%程度の高成長を記録したとみられる。経済は22年以降は物価上昇が沈静化する中、5%程度の成長が期待される。当行は感染拡大に対し、200億米ドルの新型コロナウイルス感染症対応支援パッケージや90億米ドルのアジア・太平洋ワクチンアクセスファシリティなどを通じ迅速に域内開発途上国への支援を実施してきた。事業計画は、引き続き18年に策定された「ストラテジー2030」に沿って、まだ残る貧困と不平等への対処、ジェンダーの平等促進、気候変動対策、暮らしやすい都市づくり、農村開発と食料安全、ガバナンス強化、地域協力と統合推進など7分野に重点を置き多様な支援を実施していく方針である。
- (4) 健全な資産の質とリスクに対して十分な資本基盤を有している。設立協定、内部の政策・ガイドライン等で定めた貸付、資金調達、流動性、為替などに関する保守的な財務運営基準を引き続き順守している。資産構成は資産負債管理目的のデリバティブを除けば、貸付や流動性目的の債券投資が大半を占める。21年9月末の貸付残高は前年比8%増の1,349億米ドルでソブリン向けが95%で非ソブリン向けは5%にとどまる。他のMDBと同様に集中リスクが高いが、上位5カ国（インド、中国、パキスタン、インドネシア、バングラデシュ）構成比は60%を下回った。資産の質は感染拡大の影響から非ソブリン向け不良債権が僅かに増えたが、21年9月末の全体の不良債権比率は0.18%と極めて低水準に維持されている。自己資本も資本利用率（使用済資本金額/業務に使用可能な総資本金額の比率）が20年末の69.1%から21年9月末には73.7%とやや上昇したが、リスクに対して十分な資本基盤を維持している。21/12期第3四半期累計の分配可能純利益は9.0億米ドルと通常業務や特別基金業務遂行に必要な利益を確保している。

（担当）増田 篤・内藤 寿彦

■ 格付対象

発行体：アジア開発銀行（Asian Development Bank）

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AAA	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2022年3月29日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：内藤 寿彦
主任格付アナリスト：増田 篤
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「国際開発金融機関の信用格付方法」（2013年3月29日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） アジア開発銀行（Asian Development Bank）
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■ 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■ NRSRO 登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル